

子どもの「放牧」





舎飼い

(アメリカ式)



牛舎内で牛を飼う、現在の日本で多数を占める方法。餌は主に穀物や乾燥させた牧草。放牧に比べ、健康状態や餌の量など牛を管理しやすい。

放牧

(ニュージーランド式)



自然に生えている牧草を餌にする。舎飼いに比べ、餌やりや糞尿の掃除などの手間が少ない。季節の変化と飼育のサイクルを合わせる。

- ・ 労力が軽減された。(これは農業試験場の成績にもあります)
- ・ 糞尿処理が楽になった。
- ・ 牛が健康になった。
- ・ 飼料にかかる費用が削減された。
- ・ 乳量が増加した。
- ・ 牛の更新が長くなった。

- ・放牧する土地がない。畜舎周辺に土地がない。
- ・牛の移動、繋ぎなどに手間がかかる。
- ・放牧は技術的に難しい。
- ・放牧導入時に費用がかかる
- ・牛が放牧に慣れていない。

こどもたちの
「やりたい！」を
「できる！」に変える一体的運営

明海小うらっこクラブ事業

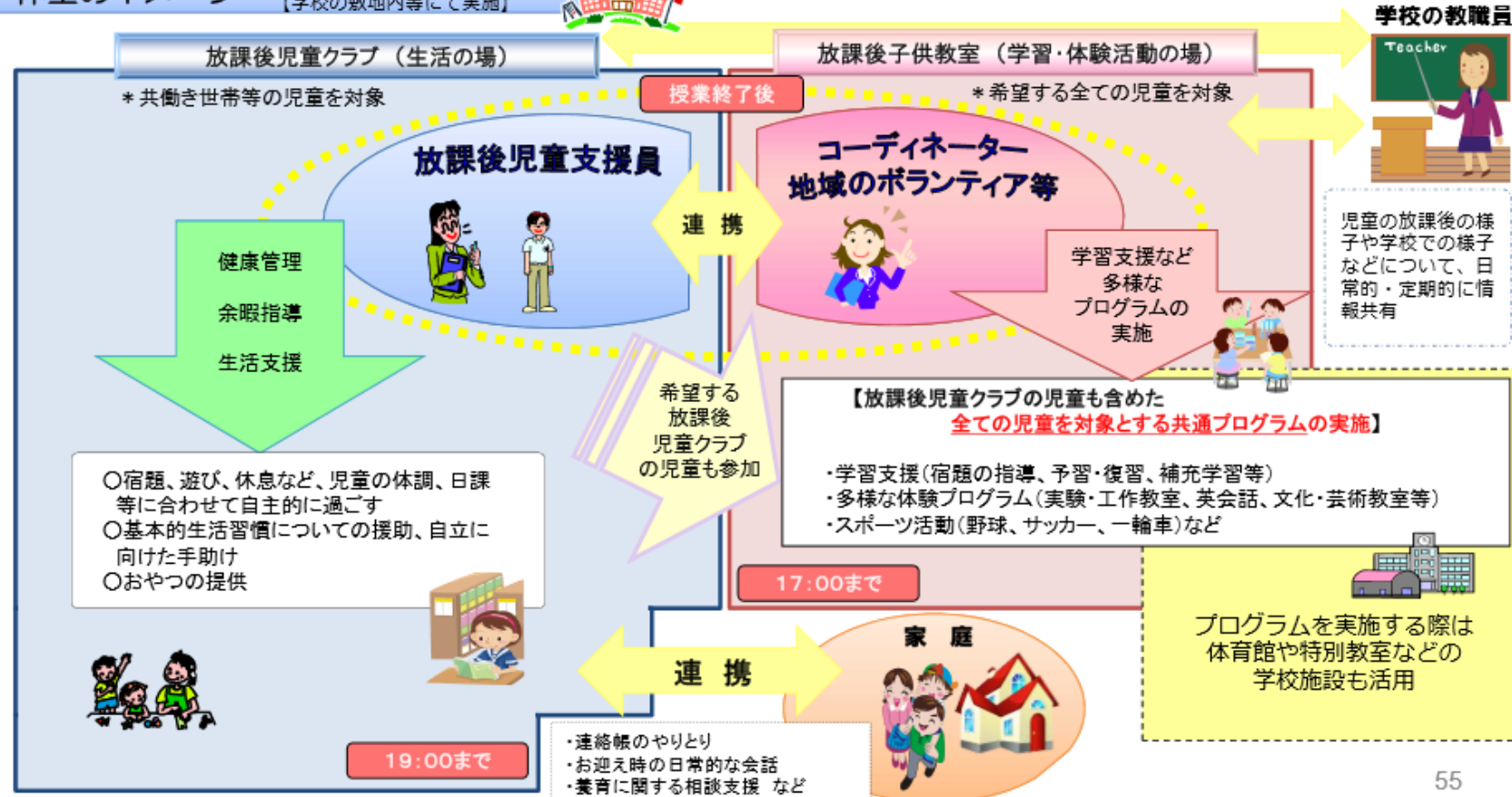
一体型の放課後児童クラブ・放課後子供教室の取組（ある自治体の例を参考に作成）

一体型とは

- 共働き家庭等も含めた全ての就学児童を対象に、共通の活動場所において多様な共通プログラムを実施
 - 活動場所は学校の余裕教室や特別教室（家庭科室や理科室、ランチルーム等）、学校敷地内の専用施設等の安心・安全な活動場所を活用
- ※放課後子供教室の開催日数は、各地域の実情等に応じて実施

一体型のイメージ

【学校の敷地内等にて実施】



放課後の解放された時間に
遊ぶ体験・学ぶ体験を通して
子どもたち自身が、主体性を
高めあい、成長できるクラブを目指す

学童

- ・親が就労している
1年生～4年生

- ・主に、学童専用の
スペースで過ごす

- ・家庭との
つながりが濃い

異年齢

- ・全学年対象

- ・異年齢専用の教室や
校庭や体育館で過ごす

- ・家庭との
つながりがない

etc...

学童、異年齢 それぞれのよいところを**一体的**に！

学
童

学習

30分

おやつ

15分

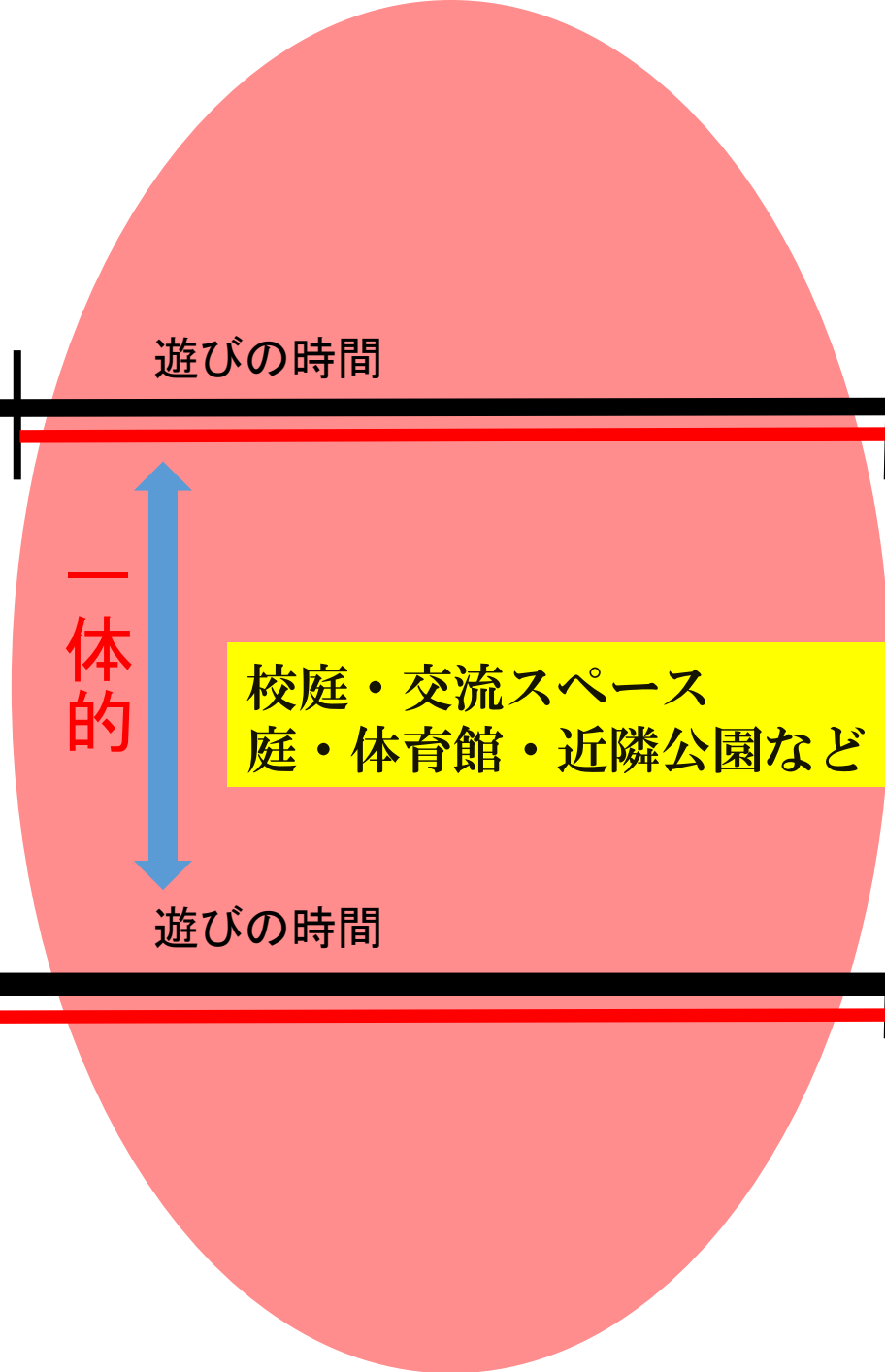
遊びの時間

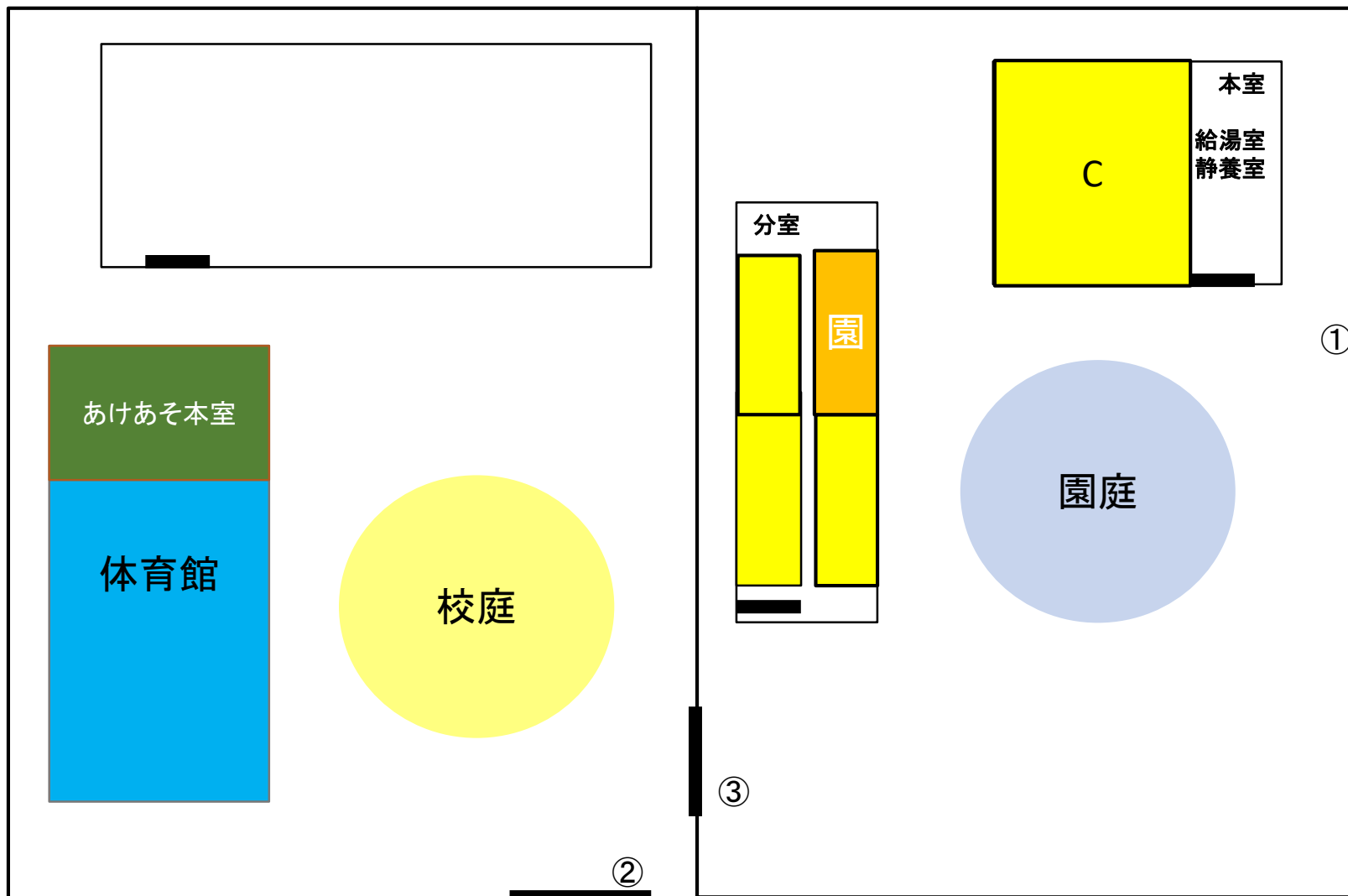
一
体
的

校庭・交流スペース
庭・体育館・近隣公園など

遊びの時間

放課後子ども教室





学童クラブエリア

- A 学童クラブA教室
- B 学童クラブB教室
- C 学童クラブC教室

※学童クラブ教室には異年齢の児童は基本的に入らない

異年齢エリア

- ア 異年齢教室 (学習など)

共用エリア

- あ 工作ルーム (17時まで)
- い プレイルーム (異年齢の児童は③通用門開放後から利用)

う 校庭

え 園庭

お 体育館

(曜日により使用可能)

ピ ビオトープ

(自然活動他、地域での協働の場としての活用を検討中)

出入り口など

- ① 学童正門 (子どもの帰宅等に使用)
- ② 学校正門
- ③ 通用門 (学童クラブの児童の登所に使用、異年齢の児童は学童クラブおやつ終了後から)

図1 学童クラブ用地活用案













あけみ学童クラブ リーダーせんきょ



8





























